

情勢報告（平成27年5月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

露地ショウガの被覆資材検討中



発芽状況を調査する営農指導員

J Aとさしショウガ部会では、定植時に使用する被覆資材の検討を続けています。農業改良普及課は、昨年の調査で慣行（パオパオ）より保温性が高い傾向があった資材について、使用1年目2か所、2年目1か所の計3か所で実証ほを設置しています。5月1日から、J A営農指導員と協力して温度や発芽状況を調査しました。

今年は、4月上旬に雨天が続き、定植が遅れたため、保温効果の確認はできませんでしたが、2年目の資材でも充分使用可能なことがわかりました。

今後はさらに資材の耐久性を確認し、経済性についても検討していく予定です。

集落営農組織活動の向上を目指します

～いの町 上東地区営農組合総会～



上東小学校講堂での総会

4月24日に上東地区営農組合の総会が開催されました。上東地区営農組合は農作業受託、協業生産・販売、有望な品目の検討等に取り組んでおり、農業改良普及課は、町・J Aと連携し、組織活動の活性化を支援しています。平成26年度は水稻防除、秋まき野菜の検討および作業受託料金等の見直し等の指導により、作業受委託の年度目標達成を支援しました。

平成27年度は、組織活動の更なる活性化のため農業改良普及課の開催する集落営農塾（法人化コース）での学習に取り組むことに決まりました。

農業改良普及課は、集落営農塾により上東地区営農組合の法人化へのステップアップを支援します。

中央西地区環境制御技術研究会が勉強会を開催しました

～J Aとさしメロン部会～



勉強会で学ぶメロン部会員

5月13日、中央西地区環境制御技術研究会は、J Aとさしメロン部会からの要請により、産地・流通支援課の細川専門技術員を招き、環境制御技術について勉強会を開催しました。15名の部会員が環境制御技術の基礎とメロンにおける炭酸ガス施用技術の研究事例等について学び、活発な質疑が交わされました。農業改良普及課からは補助事業の活用等について情報提供を行い、環境制御技術の導入を進めていこうという気運が高まりました。

研究会では、今後も順次、同様の学習会や炭酸ガス発生装置や環境測定装置のメーカーを招いた勉強会を予定しています。